

# 校長だより

白山市立鳥越中学校

No7

2020, 6, 30



国語科の授業で取り組んだ「メッセージをくれる言葉を贈ろう」という2年生のレポートが食堂前の廊下に掲示されています。自分が共感した言葉や詩を紹介し、そこから自分が受け取ったメッセージを書いてくれています。

皆さんの作品を一つ一つ読んでいくと、たくさんの素敵なお言葉や詩に触れることができました。中に私が以前から好きな詩を選んでいる人も何人かいましたが、受け取るメッセージが自分とは違うところもあって、そこも新鮮でした。たとえば「くまさん」という詩を選んだ男子はそこから「もっと自分のことを知りたいと思った」ようで、自分にはない感性だと、ちょっとドキッときさせられました。

今回、私が選んだ詩は吉野弘さんの「素直な疑問符」です。小鳥が首をかしげる仕草、かわいいですね。みんなも小さかった頃は、分からぬこと、不思議なことがあったら素直に「分からない!」「なんで?」って聞いていたのではないでしょうか。今はどうでしょう?もう少し「どうして?」って聞いてもいいし、「わからぬから教えてください」と言ってもいいですよ。そんな素直な???を先生達は待っています。(授業中、静かすぎる皆さんにちょっと心配しています。)

## 素直な疑問符

吉野弘

小鳥に声をかけてみた

小鳥は不思議そうに首をかしげた。

わからないから

わからないと

素直にかしげた

あれは

自然な、首のひねり

てらわない美しい疑問符のかたち。

時に

風の如く

耳もとで鳴る

意味不明な訪れに

私もまた

素直にかしげ、小鳥の首でありたい。

この詩の「みずにつつたいいかおみてそつだまくはくまだつた」の部分から僕は、相手のことはよく見えるけど、自分のことはあまり見えないからよくわからないというメッセージを受け取りました。僕はこのことはひとことではなく、もっと自分のこととを知るうと思いました。

『子どもの心を見つめる詩』西郷竹彦(黎明書房)一九九六年

2A presents  
メッセージをくれる  
言葉を贈ろう

## 部活動区切りの日

新型コロナ感染防止のため、加賀地区ブロック大会を始め、いろいろな大会が中止となりました。本来なら、6月20日からブロック大会があり、それが運動部三年生の目標として冬場もがんばってきました。しかし中止となつたため、三年生の何人かは先週末で部活動に区切りをつけることになりました。それにあふれる思いがあると思いますが、自分の決断に迷いを持たず、それぞれの次の目標に向かい邁進していってください。

